



2026年7月号 (No.39)

多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.takami.jp/library/index.html>本の
甲子園

本の甲子園とは…?

読書文化の新たな広がり、地域との関わりを生み出すことを目的に、各県から地元作家による小説を1冊代表に決め(作家自身によるエントリー)、日本一を決めるトーナメント戦です。

三重県からは、
村上しいこさんの『海は忘れない』
がエントリー!
図書館でもコーナー展開中!

他にどんな本がエントリーされて
いるのか、トーナメントの行方など
気になる方は、要チェック!

『海は忘れない』 (913.64)
村上しいこ/著 小学館

多気図書館

7月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~			1	2	3	4 おはなし会
5	6	7	8	9	10 おはなし おもちや	11 おはなし ほけつと
12	13	14	15	16	17 赤ちゃん おはなし 会	18
19	20	21	22	23	24	25 おはなし ほけつと 工芸教室
26	27	28	29	30	31 整理日	

ブックスタート (のびのび) 7/24(金) 10:00~

~夏休みイベント紹介~

申込み期間

7/1~ 先着順

- 夏のおたのしみ ブッククラブ
7/25(土) 13時30分~16時30分
- 楽しく小皿を作ろう!アトリエブシケ陶芸教室
8/9(日) 10時~12時
- おはなし会&おんがく会
きいて!つくって!えんそうしよう!
8/22(土) 14時~16時

※要申込

※詳細はHP、チラシをご覧ください

勢和図書館

7月のカレンダー

□: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30~			1 おはなし会 (0歳)	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 おはなし会
12 ほんとか カフェ	13	14	15 おはなし会 (1~3歳)	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25 おはなし会 陶芸教室
26	27	28	29	30	31 整理日	

~ イベント 紹介 ~

- ほんとかフェ&柳田川 Re 本古本市
7/12(日) 13時~16時 古本市は11時~
コラボ:ホテルカゴさん コーヒー:B'sshopさん
- 楽しくコップを作ろう!アトリエブシケ陶芸教室
7/25(土) 10時~12時 ※要申込
- ほんとかフェ&夏のおたのしみ
8/9(日) 13時~16時
※詳細はHP、チラシ等をご覧ください

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」
か「seiwabib」で検索



7月のおすすめ本



『愛の平壤冷麺』 ムン・ヨンビ:著 鈴木琢磨:取材・文 徳間書店 (289.24)

北朝鮮のエリート家庭に育った著者が、命がけで脱北し韓国を経て、日本で本場の平壤冷麺のお店を開くまでのノンフィクション。
ドラマではない、リアルな北朝鮮を垣間見ることができます。
料理を通して人と人をつなぐ姿に、勇気と希望をもらえます!

『デジタル社会と子どもたち そのリスクと賢い使い方』

野井真吾 NPO 法人子どもとメディア 山極壽一:編 かもがわ出版 (371.4デ)

今や私たちの生活に欠かなくなっているデジタル機器。子どもたちの学習現場にも広く浸透しています。便利な一方で子どもたちの心身に大きな影響も。
学校の先生、保健室の先生、保育士さんなど子どもに関わる様々な立場から現状を報告。与えられた物をただ使うのではなく上手に使い、メディアとの上手な関係を築いていきましょう。



『mitosaya 葉草園蒸留所で作る 13 のこと』

江口宏志:著 山本祐布子:著 KADOKAWA (588.5ミ)

荒れ果てた葉草園を引き継ぎ、自分たちの蒸留所を営む江口さんたち。ここは作り上げる工程が他とはちょっと違う。作るものを決めるのではなく、あるものから作り出していく。それは蒸留酒に限らず、庭も住まいも居心地も。捨てないものだけをやる。そんな江口さんたちの営みが、人との出会いを招き、循環が生まれていく。

『図解 眠れなくなるほど面白い世界遺産』: 日本文芸社 (709ミ)

世界中の世界遺産にまつわる驚きの歴史や、知られざるエピソードをわかりやすく紹介されており、まるで世界を旅している気分!
現在、奈良県の「飛鳥・藤原の宮都」が世界遺産登録を目指していることから、今後ますます注目されることでしょう。知的好奇心がくすぐられます。



『その手は明日を紡ぐために』 五十嵐大:著 KADOKAWA (F913.6イ)

東京でライターとして働いている紡は、耳が聞こえない両親をもつ「コーダ」。仕事のこと、両親のことなどで葛藤する紡だったが、様々な人々と関わる中で気持ちに変化していく。最後に紡が気づいた大切なこと。それは…。
自身もコーダである著者だからこそそのリアルが伝わってくる小説です。

『昨日星を探した言い訳』 河野裕:著 KADOKAWA (BF913.6ヨ)

黒い瞳と緑色の瞳の人が存在する世界、かつて緑の目の人々は差別されていた。
物語の舞台は全寮制の中高一貫校。二人の主人公、少年少女それぞれの視点で描かれる生徒会選挙や委員会活動などの学園生活がとてもスリリング!!
大人も読書感想文を書きたくなっちゃうような青春ラブストーリーです!

